

MEMO

- 7ページ -

発達検査のリスト

なまえ:()
 生年月日: 年 月 日
 実施日: 年 月 日

<セクションA> 保護者の方にうかがいます

	質問項目	ない (いいえ)	ほとんど ない	時にある	よくある (はい)
1	あなたのお子さんはゆすられたり、あなたのひざの上でパウンドさせたりすることを喜びますか				
2	あなたのお子さんは他の子どもに興味を示しますか				
3	あなたのお子さんは物に登るのが好きですか(例えば階段のような)				
4	あなたのお子さんは「いないいないばー」や「かくれんぼ」を楽しみますか				
5	あなたのお子さんは電話をかけた後、お人形で遊んだりというような「ごっこ遊び」を楽しみますか				
6	あなたのお子さんは何かを要求するために、指さしをしたことがありますか				
7	あなたのお子さんは自分の興味のあることにあなたの注意を向けようとして、指さしをしたことがありますか				
8	あなたのお子さんは小さなおもちゃ(ミニカーや積み木)を正しく(なめるだけ、さわるだけ、落とすだけなど以外)使って遊ぶことができますか				
9	あなたのお子さんは何かを見せるために物を持ってきたことがありますか				
10	あなたのお子さんは1～2秒以上あなたと目があいますか				
11	あなたのお子さんは音に対して敏感すぎる(耳をふさぐなど)ということがありますか				
12	あなたのお子さんはあなたの顔を見たり、あなたが微笑んでいるのを見て笑顔になりますか				
13	あなたのお子さんはあなたがしたことをまねしますか				
14	あなたのお子さんはなまえを呼ぶとそれに反応しますか				
15	あなたのお子さんは部屋の向こう側にあるおもちゃを指さすと、その方向を見ますか				
16	あなたのお子さんは歩きますか				
17	あなたのお子さんはあなたの見ているものを見ようとしていますか				

	質問項目	ない (いいえ)	ほとんど ない	時にある	よくある (はい)
18	あなたのお子さんは顔の近くで奇妙な指の動かし方をしますか				
19	あなたのお子さんはあなたの注意をひこうとしますか				
20	あなたのお子さんは耳が聞こえないのではないかと疑ったことはありますか				
21	あなたのお子さんは人が何を言っているのか理解していますか				
22	あなたのお子さんはポーツと何かを見つめていたり、目的もなくただ歩き回るというようなことはありますか				
23	あなたのお子さんは慣れない場面に直面した時あなたの様子をさぐるようにあなたの顔を見ることがありますか				

<セクションB> 専門家による観察

	観察項目	各回答欄に○をつけてください			
1	お子さんの注意を向けてから何か興味のあるものを指さして「ほら、あのおもちゃを見て！」と言ってお子さんの顔を見てください。そのお子さんはあなたの指さす方向を見ましたか	/	/	はい ()	いいえ ()
2	「電気はどこにありますか」と言うと、そのお子さんは電気を指さしましたか	なにも しない ()	指さすだ け ()	見ただけ ()	見てかつ 指さした ()
3	お子さんの注意を向けてからおもちゃのポットとカップを見せ、「お茶をいれてください」と言ってください。そのお子さんはお茶をいれるまねをしたり飲んだりしましたか	/	はい ()	まねを する ()	いいえ ()
4	そのお子さんは積み木を積むことができましたか。もしできた場合は何個積みめましたか () 個	/	/	はい ()	いいえ ()
5	「バイバイ」と言ってお子さんの顔を見てください。そのお子さんはバイバイをすることができましたか	/	/	はい ()	いいえ ()
6	観察時間中、お子さんと目があいましたか	全く あわない ()	めったに あわない ()	時々あう ()	よくあう ()

<観察の記録>

.....
.....
.....

協力：長崎県・神戸市・姫路市

このDVDおよびマニュアルは、健診以外の目的でご使用にならないようお願いいたします。
ご協力頂きました検査内容に関しては、本研究の目的以外に使用することはございません。

2008年3月作成

サポートブックの作り方・使い方ガイド

幼児・低学年用



平成20年3月 第1版

神戸市サポートブック作成検討委員会
神戸市こども家庭センター発達障害ネットワーク推進室

平成19年度 厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）

「サポートブックの作り方・使い方ガイド」の作成にあたって

「サポートブック」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか？「サポートブック」は、家族以外の人に関わってもらう時に子どもさんの様々な情報を知ってもらうためのツールです。

使い慣れると大変便利なツールですし、子どもさんの情報を整理するとこれまで気づけなかった一面が見えてきたりもします。しかし、実際に作るとなると「どうしたらいいのかわからない」と戸惑ってしまう方が多いかと思います。

この小冊子は、そのような方々に簡単に具体的な作り方を知ってもらうために作りました。最初は簡単なメモのようなものから始めるのがコツです。一方、記述が詳しすぎると預かる方も読み切れないことがあります。作成委員会メンバーには、ご家族の会を中心に、区役所子育て支援係、保育所・園、学校、児童館など子どもと関係する機関の方々に加わっていただきました。サポートブックはすべてを持ち歩く必要はありません。ファイル形式にして、必要に応じてその一部を使えば良いのです。もちろん成長に合わせて作り変えが必要です。でも古い記録は捨てないでください。後から振り返ると貴重な発達記録になります。

まずあれこれ考えずに作ってみましょう。皆でワイワイする作業は楽しいものです。今回は第一版ですので、気づけなかった点や改良点があれば、ぜひご意見をください。

平成20年3月

神戸市サポートブック作成検討委員会

委員長 高田 哲（神戸大学教授 医学部保健学科）

目次

1 説明 編

サポートブックについて／サポートブックの書き方

2 具体例（書き方） 編

本人ファイル①②③／トイレ／パニック／コミュニケーション／用途別のサポートブック／子どもに関わる機関からのメッセージ／神戸市サポートブック作成検討委員会名簿

3 様式 編

本人ファイル①②③／一般様式／コミュニケーション様式

■サポートブックについて

●サポートブックって何？

サポートブックは、子どもを預かってもらう場合（保育園・所、幼稚園、学校、学童保育、講演会での託児など）、預かる人（支援者）に知っておいて欲しい「子どもの情報」（困ったことが起こった場合の対応方法等）をまとめた冊子です。

サポートブックを支援者に渡すことで、子どもが初めての場所や知らない人でも安心して楽しく過ごすための大きな助けになります。



●作るのは誰？

サポートブックを作成・管理するのは、保護者です。また、預かってもらった支援者からの情報を加えることで、保護者と支援者とのコミュニケーション・ツールとしても役に立ちます。

●どうやって手に入れればいいの？

このサポートブックの作り方・使い方ガイドと記載様式は、神戸市こども家庭センター発達障害ネットワーク推進室のホームページからダウンロードして入手することができます。



http://www.city.kobe.jp/cityoffice/18/menu03/b/hattatsu_shougai/index.html

■サポートブックの書き方

①書けるところから書きましょう。

とにかく書けるところから、書き込んでいきましょう。難しく考える必要はありません。お子さんが安全で楽しく過ごすために必要だと思われることを書くようにしましょう。

すぐに思い出せない部分は、空白でもかまいません。後で気づいたり、思い出したりした時に書き入れるとよいでしょう。

②楽しく作りましょう。

楽しみながら書いていきましょう。イラストやシール、本人の写真などを使うと、きれいで見やすいものになります。

③「〇〇できます」という書き方をしましょう。

例えば、「座るところがあれば、自分で靴をはけます」と書くと、支援者は何を手伝ったらよいか分かります。

反対に、「△△はできません」という書き方では、支援者は困ります。

④成長の記録にも

必要がなくなったページは取り外し、成長の記録として保存しておきましょう。後から振り返ると、子どもさんが着実に成長していることが分かります。

⑤サポートブックのそれぞれの項目の書き方

項目には、本人ファイル①②③／トイレ／水分補給・おやつ／食事／外出・移動／コミュニケーション：表出／コミュニケーション：理解／パニック／きがえ／おふろ／洗面・はみがき／就寝・ねざめ、があります。特に書き方が難しいと思われる「本人ファイル①②③」、「コミュニケーション：表出・理解」、「パニック」、また基本的な項目の見本として「トイレ」について次ページ以降に具体例と書き方を示しています。これら以外の項目も、例を参考にして作ってみてください。

※様式は、本書の様式編からコピーするか、ホームページからダウンロードしてから書き込んで、ファイルなどにとじてお使いください。

本人ファイル①の書き方

<具体例>

本人ファイル①……個人情報に関するファイル
平成 20年 3月 12日 作成

本人の基本的な個人情報に関するファイルです。名前とふりがな、年齢、性別、生年月日と、ふだん多くの人に呼ばれている「呼び名」を書きましょう。

ふりがな	5歳
こうべ はるや	男 ・ 女
名前 <u>神戸 春哉</u>	15年2月3日生
(呼び名: はるくん)	

写真は、現在の本人の顔がはっきりと分かるものがよいでしょう。

写 真

住所	神戸市中央区東川崎町1丁目3番1号
----	-------------------

保護者の連絡先を記入します。欄は3つありますが、3つとも書く必要はありません。

電話	第1順位	氏名	神戸 奈津代	本人との関係	母	番号	○△□●-×○◇■
	第2順位	氏名	神戸 明生	本人との関係	父	番号	○△□●-×○◇■
	第3順位	氏名	神戸 冬次	本人との関係	祖父	番号	○△□●-×○◇■

所属している幼稚園、保育所、学校などの名前と、担当や担任の先生の名前、そして連絡先を書きましょう。

園 学校	園・学校名	神戸市立こども幼稚園
	学年・組、担任	ばんだ組 王子 先生
	住所・電話	神戸市灘区王子町3-1 住 〇△□●-×○◇■

本人ファイル②の書き方

何よりも優先してほしいような配慮について書いてください。本人が安全に過ごすために、最低限これについては注意をしてほしい、ということを書きます。支援者に子どもを預けるときに、いちばん伝えたいことを具体的に書きましょう。

<具体例>

本人ファイル②……すべての場面で必要な基本ファイル

<p>特に配慮のいる状況と、その対応</p>	<p>暗い所をととても怖がります。急に暗くなったりすると、恐怖でパニックになりますので、劇の演出などでも、あらかじめわかっている場合は、すぐに明るい所に移れる場所にして下さい。</p> <p>走っている自動車を触ろうとすることがありますので、道路を歩くときは支援していただく人が車道側で手をつないで歩いてくださると危険が避けられます。</p>	<p>本人の好きな遊び、得意なことなどを書きます。支援者が本人とコミュニケーションを取るのに助けになりそうな遊びがあれば書いてください。</p>
<p>本人の好きな遊びや、得意なこと</p>	<p>(屋内/屋外/注意・配慮点)</p> <p>室内では、電車のおもちゃを走らせるのが好きです。レゴブロックも好きで、あれば自由に作ります。いろいろなものを作るのが得意です。</p> <p>屋外では、フランクがなにより好きです。</p>	<p>嫌いなことや、苦手なことについて書きます。うっかり支援者がそういうことに誘ってしまって、本人との関係が悪くならないように気をつけたいことを書いてください。</p>
<p>本人の嫌いな遊びや、苦手なこと</p>	<p>(屋内/屋外/注意・配慮点)</p> <p>歌いながら同時に体を動かすようなことはうまくできません。でもその場を楽しむことはできます。</p> <p>屋外では、追いかっこ(大好き)はできますが、鬼ごっこのようなルールのあるものは苦手です。</p>	
<p>お金の管理</p>	<p><input type="checkbox"/> お金の意味が分かっている <input checked="" type="checkbox"/> お金の意味が分かっていない</p> <p><input type="checkbox"/> お金の管理ができる <input type="checkbox"/> お金の管理ができない</p>	

本人ファイル③の書き方

診断名は確定している場合だけでかまいません。障害の一般的な特徴を書くよりも、むしろ本人の個性や性格を表すような書き方がよいでしょう。

<具体例>

本人ファイル③……場面に応じて提供するファイル

本人の 情報	診断名	自閉症
	本人の特徴	いったんこうと決めたらルールはなかなか変えませんが、そのため頑固に見えることが多いです。また、いろいろなことを想像することが苦手で、言葉で説明されても十分に理解できていないことがあります。興味を持ったことにはかなり熱中し、国旗はたいいていわかります。でも人と一緒にいることが大好きです。

服薬等	服薬	てんかんのくすりを飲んでいきます
	持病	アトピー性皮膚炎
	アレルギー	鶏の卵でじんましんがでることがあります。そのため、卵の入ったお菓子は禁止しています。

服薬等の欄には、いつも飲んでいる薬について書きます。他に身体面での病気やアレルギーがある場合には、避けてほしいことを目立つように書いておきましょう。

	機関	実施時期 (年齢)	結果内容
診断・検査の記録	〇〇〇センター	4歳のとき	言語性知能指数 67 動作性知能指数83 全検査知能指数75 発達指数 76
	△△△クリニック	4歳のとき	自閉症(知的には境界線上)と診断された

診断・検査時の記録の欄には、これまでに受けた診断や検査の実施機関、実施時期とその結果を記入してください。診療機関が決まっている場合には、主治医に確認しておくのも一つの方法です。

療育手帳	<input checked="" type="radio"/> 無 ・ <input type="radio"/> 有 (A1 A2 B1 B2)
------	--

トイレの書き方

支援者が子どもを預かるときに、気になることの一つがトイレに関する事です。失敗を避けるために、いつもの方法のポイントをわかりやすく書いておきましょう。



- ①いつも決まった時間に行っているのなら「何時に行っています」
日課の中に組まれているなら「昼ごはんの後にしています」
何かをきっかけに行っているなら「お茶を飲んだ後は行きます」など、
日ごろの習慣を書いておきましょう。
- ②決まった時間ではなく、本人からのトイレサインをたよりにトイレをしているのなら、そのことを詳しく書きましょう。
- ③「洋式の便器ではできない」「エアータオルの音が嫌い」など、トイレの際に困ることがあれば、それも書きましょう。
- ④一人でどこまでできるのか、どんな手助けが必要なのかを具体的に書きましょう。

※まだトイレが確立していなくて、オムツを使っているのであれば、そのことも書いておいてください。

<具体例>

トイレ	
(本人の状況)	
例 1	まだ、トイレを誰かに訴えることはしません。
例 2	オシッコがしたくなると、わざわざしてスポンの中に手を入れようとしています。
例 3	ウンチは、いつも晩ごはんを食べた後にすることになっています。
(支援者に伝えたいこと)	
例 1	わざわざしてスポンの中に手を入れようとして、スポンの上からおちんちんを触ろうとしていたら、トイレに連れて行ってください。 便器の前に立てば、自分でスポンを下ろしてオシッコができます。 スポンをはき直す時には、手助けがいらいます。

パニックの書き方

パニックってどういうこと？

何らかの原因で気持ちが高ぶり、混乱のために状況がわからなくなってしまう、さらに自分の感情をうまくコントロールできなくなってしまう状態を、しばしば「パニック」と呼びます。

パニックは、本人の思いが伝わらず、コミュニケーションが上手にとれない時に起こることが多いようです。また、家族と離れていつもと違った環境になったときなどに、極度の不安から起きやすくなります。



これまでパニックになったときの状況とその対応

母親と離れて他人と過ごすとき、パニックになる事態をできるだけさけるためにも、これまでの経験をもとに、支援者にわかりやすく書いておきましょう。

☆どんなことをきっかけに起こりやすいか

☆パニックになったときに、具体的にどんな状態になるのか

☆こうしたら早く落ち着きましたと、いう情報

☆どの程度の時間続くのか。めやすとなる時間が書いてあれば、支援者が対応しやすくなります。

<具体例>

パニック
(本人の状況) (本人がしたいと思っていることを妨げられたとき) ☆まだ遊ぼうとしているときに、無理やりに終わらせようとされたときや、本人が使っているおもちゃを他のだれかに取られたときに、パニックを起こします。(大きな声で泣き叫ぶことが多いです) (イヤなことをさせられようとしているとき) ☆行きたくない場所に無理に連れて行かれそうになったときにも、パニックを起こします。 (怖いものや苦手なこと、嫌なものごとがあったとき) ☆イヌの鳴き声が苦手で、イヌが近づくとパニックを起こします。
(支援者に伝えたいこと) ☆落ちつくまでに、短いときで5分程度、長いと30分くらいかかることもあります。他人との関係で問題がなければ、そのまま知らん顔をしていてください。過剰に反応すると、さらに大きなパニックを誘発することがあります。少し落ち着いた時に、大好きなトーマスの絵本を見せたりして、気分転換をはかるのが良い方法です。

コミュニケーション（本人→周囲の人）の書き方

<具体例>

コミュニケーション（本人→周囲の人）

<p>コミュニケーションについて 本人→周囲の人(表現手段)</p>	<p>①して欲しいことがあるときの、本人の表現のしかた 「□□をしてほしいときには△△します」、というように、他の人では分かりにくいことは書いておきましょう。 (例:「立って両手を差し出す」というしぐさは、「手を取って一緒にびよんびよんジャンプしてほしい」という合図です)</p>
<p>(表現手段) 複数選択可(□にチェックをしてください)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ことばで言う <input type="checkbox"/>1~2語文程度で言う <input type="checkbox"/>意味のない声を出す</p> <p><input type="checkbox"/>指差しをする <input type="checkbox"/>大人の手や服を引っ張る</p> <p><input type="checkbox"/>カードなどの道具を使う →(道具の種類:)</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>[]</p>	<p>②本人に特有の表現のしかた ことばでは言えなくても、そのしぐさで何かを伝えていることがわかっている場合、それを書いておいてもらうと支援者は「ああ、そういうことなのか」と安心できます。 (例:おちんちんをさわっていたら、オシッコがしたいというサインです)</p>
<p>(本人独特の表現法)</p> <p>☆欲しい物が本人の目の前にないときや、自分では届かない所にあるときは、手を引いて連れて行きます。</p> <p>☆トイレに行きたいときは、股間を気になる様子が触ります。</p> <p>☆イヤなとき(例えば知らないところへ連れて行かれるとき)は、嫌がってしゃがみこんだりします。 どこへ行くのか簡潔に「ハッキリ」と「○○に行くよ」と言ってもらえると、行きます。</p> <p>☆注意を向けて欲しい時には、手を握ってきます。</p>	

■用途別のサポートブック（作成おすすめファイル一覧）

●子どもを預ける機関に応じて、サポートブックの項目を調整しましょう。

このサポートブックは、必要な時や場所や目的に応じて、支援者に渡すページを調節できます。

そのために用途や目的に応じて、こんな情報があれば便利という一覧表を付けました。

子どもの生活スタイルに合わせてこの表を活用していただき、〇〇に行くときはこの組み合わせで、というように工夫してください。

そうすることによって、必要な情報を過不足なく、効率的に伝えることができるようになっています。



①一時的な預かり（講演会での託児など）のとき

必要な支援の程度が軽いので、保育所などに比べると必要な情報はかなり少なくなります。

②保育所など、日中、定期的に預けるとき

本人が食事をしますから、嫌いな食べ物や、アレルギー反応を起こす食べ物、逆に大好きな食べ物といった、「食事」に関する項目も必要になります。また、食後には歯みがきタイムがありますから「洗面・歯磨き」項目も大切です。

さらに体操着などに着替える必要のあるときは、どの程度ひとりで行えるかという「きがえ」項目も必要になってきます。



用途一覧

※「○」は、その項目のサポートブックがあると、便利と思われる場合。ただし、これが絶対ではなく、支援者や用途に応じて、渡す情報を選択してください。

項目 \ 用途		1	2	3	4
		一時預かり	習い事・特別行事	毎日通う所	お泊りを含む預り
		一時保育・講演会での託児	サッカー等運動指導	学童保育・保育園、幼稚園	キャンプ等野外活動
1. 本人ファイル①	個人情報に関するファイル	○	○	○	○
2. 本人ファイル②	すべての場面で必要な基本ファイル	○	○	○	○
3. 本人ファイル③	場面に応じて提供するファイル			○	○
4. トイレ	大・小の配慮点	○	○	○	○
5. 水分補給・おやつ	好きなもの・きれいなもの・食べてはいけないもの／配慮点	○	○	○	○
6. 食事	好きなもの・嫌いなもの・食べてはいけないもの／配慮点			○	○
7. 外出・移動	できること／配慮点			○	○
8. コミュニケーション 本人→周囲の人	表現手段、本人独特の表現等	○	○	○	○
9. コミュニケーション 周囲の人→本人	伝達手段、大人からの指示等	○	○	○	○
10. パニック	きっかけ／行動／対応	○	○	○	○
11. きがえ	できること／配慮点	○	○	○	○
12. お風呂	できること／配慮点				○
13. 洗面・歯磨き	できること／配慮点			○	○
14. 就寝・ねざめ	状態／配慮点	○		○	○

■子どもに関わる機関からのメッセージ

保育園・所

保育所が子どもにとって最もふさわしい生活の場になるためには、家庭との緊密な連携が必要です。そのためにも「こんな時こうしたらうまくいきます」「子どもが困ることはこんなことです」等、支援の方法を保護者の方とお子さんについて十分に話し合い、連携をとるのが一番です。

サポートブックを通して、お子さんについての必要な情報をしっかり効率的に得ることができ、保育所でお子さんが安全に楽しく過ごし、スムーズに保育所生活の中に入れるようにできればと思います。人間形成にとって重要な幼少期に、保育所が保護者の方と共に子育てできる場でありたいと思います。

兵庫県自閉症協会高機能ブロック

兵庫県高機能広汎性発達障害児・者・親の会 ピュアコスモ

ピュアコスモは兵庫県在住の高機能広汎性発達障害（高機能自閉症・アスペルガー症候群など）の子供を持つ保護者と本人の会です。平成15年に発足し、神戸市を中心に活動しています。会員数は現在175名、兵庫県自閉症協会に所属し平成16年度高機能ブロックとして活動しています。会の活動は (http://www5f.biglobe.ne.jp/~h_hfpdd) ホームページでご覧いただけます。講演会・学習会・保護者用相談会・地区別交流会・本人活動（ボーリング・デイキャンプ・クリスマス会など）・15才以上当事者相談会など実施。

サポートブックは、本人活動などの際、ボランティアに保育をお願いするときに助かります。より繊細で敏感な子どもたちも多いので、ひとりひとりの特徴を前もって知ると、子どもたちの無用なイライラを少しでも減らすことに役立ちます。トラブルが少ないと子どもたちも安定し穏やかに過ごせますので、支援者も保護者も安心～サポートブックは最強のアイテムです。

兵庫県 LD 親の会「たつの子」

LD・ADHD・アスペルガー症候群・高機能自閉症・広汎性発達障害・軽度知的障害など発達障害の子どもを持つ親の会です。

1990年に発会し、神戸市を中心に活動を始めました。

現在では兵庫県下に約300名の会員がいます。診断の有無に関わらず、「情報がほしい」「勉強がしたい」など一緒に活動しようと思う方ならどなたでも入会できます。

年6回の会報発行、講演会・勉強会のほかに地域でのブロック活動、子どもも参加する体操教室・算数教室などのサークル活動やレクリエーション活動、親同士の情報交換・懇親会などを行っています。(たつの子ホームページ <http://www.sanynet.ne.jp~tatumoko>)

サポートブックを記入することにより、親が子どもの特性をより理解し、わかりやすく表現する機会になると共に、子どもに関わる支援者に理解してもらう近道にもなると思います。講演会の保育、サークル活動のサポート、運動会などのボランティアをお願いする時など親子が別々に活動するときに役立ちます。

神戸市ファミリー・サポート・センター

神戸市ファミリー・サポート・センターは、子育て中の方が仕事や急な用事などで子どもの世話ができない時に、一時的・臨時的に地域の方が応援する会員同士の相互援助活動です。協力をお願いする依頼会員の要件は、市内在住か在勤で概ね生後3ヶ月から小学3年生までの子どもがいる方です。

現在約2000人の依頼会員と約1000人の協力会員が登録しており、単発の依頼から数年にわたる息の長い活動まで、温かい援助活動が日々行われています。

サポートブックを利用することで、支援者は子どもの様子をよりよく理解でき、具体的なサポートをする上での助けとなります。また、子どもも支援者との時間を安心して楽しく過ごすことができます。保護者も支援者に預かってもらう上で知っておいてほしいことを伝えやすくなるでしょう。

児童館

児童館は、地域の子ども（0歳～18歳）が自由にいつでも利用できる児童福祉施設です。児童館の活動の中心は、遊びです。児童館の職員は、子どもが様々な遊び体験を通して心身ともに健やかに育っていくことを支援しています。また、子育て家庭支援事業として、放課後の留守家庭児童を対象とした「学童保育クラブ」や、午前中に実施している乳幼児と保護者を対象として「親子館事業」も実施しています。

「サポートブック」は、児童館を初めて利用するお子さんを児童館職員が理解するのに、とても有効だと思います。特に「学童保育クラブ」に登録する子どもにとっては、児童館が生活の場です。児童館は、「サポートブック」の情報を活かすことで、お子さんにとって居心地の良い遊び環境を提供し、お子さんの発達に応じたきめ細かい援助に努めます。お子さんが新しい環境や友達に早く馴染んで、生き生きと児童館で遊ぶことができることは、保護者の皆様の安心や喜びになることと思います。

YMCA

YMCAでは「子どもと若者のいのちが光り輝くようにこれを守り育てます」というミッションを掲げ、様々な活動を行っています。子どもにとって、家庭は第1の場、学校や保育所、幼稚園は第2の場ですが、それ以外の習い事をしている第3の場に関わることによって、子どもたちの新たな一面が見いだされると共に、更なる成長の可能性が広がります。そこでは家庭や学校では体験できない、社会経験、生活経験を積んでいきますが、その時に子どもが自ら楽しいと思って参加していくことが第一条件になります。そのために子どもひとりひとりにあった支援は欠かせないです。このサポートブックをきっかけに、家庭での子ども、違う社会での子ども、子どもにとって必要なこと、求められていくことを、周りの方々と共に考える機会になればと願っています。